

第二次能美市総合計画 第1回基本構想策定審議会

議事概要

日時：平成28年7月1日（金）10：00～11：50

場所：辰口福祉会館 多目的ホール

－ 議事次第 －

1. 開会
2. 市長挨拶
3. 委嘱状交付
4. 委員紹介
5. 会長・副会長選任
6. 審議事項
 - （1）策定方針、スケジュール（案）について
 - （2）基本構想（構成案）について
7. 閉会

<会議風景>



■議事概要

◆市長挨拶

- ・能美市も誕生して 11 年目を迎え、第 1 次の総合計画に基づきこれまで市政を進めてきたところである。
- ・能美市の人口は、合併当時から 2,000 人程度増加し、現在では 49,950 人ほどになっている。人口減少時代の中でも人口は微増の状態である。
- ・また、企業も 10 社以上に入っていており、合併前の税収は 70 億弱であったが、現在では 85 億ということで、厳しい経済状況の中でも税収が伸びている。
- ・このような中、昨年は全国住みやすさランキングが 3 位、今年は 10 位となるなど全国的にも高い評価を受けており、さらに日経グローバルによる「介護・高齢化対応度調査」の医療・介護部門では、全国 1 位という高い評価もいただいた。
- ・今後も厳しい社会情勢は続くと思うが、その中で能美市がどのように生き残っていくのか検討していきたい。
- ・第一次総合計画については、計画通りに進行している事業もあるが、中には遅れている事業もある。これらの状況も含めて新たな視点で担当課において議論しているところであり、第二次総合計画については皆様からご意見をいただきながら進めていきたい。

◆審議事項

(1) 策定方針、スケジュール（案）について

- ・「策定方針、スケジュール（案）について」市民生活部長より説明

◆委員

- ・市民参画に市民フォーラムと示されているが、6 月に開催されたワールドカフェがそれに当たるのか。また、その参加者数や参加者の年代について教えていただきたい。

◆事務局

- ・今回の市民フォーラムはワールドカフェ形式で開催したため、このような表記とさせていただいている。
- ・参加者は 132 名であり、地元の高校生から、高齢の方までバランスよく参加いただいたと感じている。
- ・結果については現在とりまとめ中であり、次回の審議会で報告させていただきたい。

◆委員

- ・全体スケジュールのワールドカフェを市民フォーラムに書き換える等して、言葉の整合を図るように配慮してほしい。

(2) 基本構想（案）について

◆委員

- ・それぞれ本当によく考えられた基本構想になっていると感じる。
- ・P34に「まちづくり拠点」という言葉があり、その後にP36では「地域生活拠点」、P38では「ゾーン」という言葉が使われているが、使い分けはどのようになっているのか。

◆事務局

- ・「まちづくり拠点」や「ゾーン」は、能美市全体における拠点、ゾーンという位置づけであり、「地域生活拠点」は、市民の暮らしの視点からみた小さな拠点づくりをイメージしており、地域の皆様にもご意見をいただきながら具体的に検討していきたいと考えている。

◆委員

- ・能美市としてのビジョンを示すことが本計画の目的であるため、市民からの意見を待つという姿勢ではなく、ある程度の方針を示すべきである。例えば、この地域には拠点として病院が足りない等のある程度の方向性を持った上で、地域の方々と相談していくべきである。
- ・各拠点をどのように繋ぐのか、また、企業と先端大学をどう繋ぐのかを考えていくべきである。
- ・観光面も含めて能美根上駅の有効な活用についても検討していくべきである。

◆委員

- ・能美市は合併して10年が経ち、全体としては良くなってきたと感じている。一方で、合併して良かったところと、そうでないところが明確になってきたと感じる。
- ・「小さな拠点づくり」は、都市のスケールによって捉え方が変わってくる。能美市は非常にコンパクトであり、その特性を十分に生かしてほしい。
- ・まちのコンパクト化を進める際には、あまり既存施設の場所等を動かさないように気を付けてほしい。施設を中心として、長年をかけて地域のコミュニティなども育ってきているため、それを大切にしてほしい。
- ・能美市は、社会福祉面は非常によくできていると思うが、これからは、観光客が来たる町を目指してほしい。観光客が来ることで、市民の生活とは異なるいろいろな時間帯で町が賑わうことになるため、次の産業として観光は重要になってくる。自分達のまちが持っている資源をどのように見てもらうか、興味を持ってもらうかが重要であり、その際には市のアイデンティティをもつ必要がある。
- ・能美市は、ソフト面が非常に充実しているため、ハード面をより魅力的にしてほしい。例えば、景観や交通ネットワーク、歩いて暮らすことができる歩行空間なども重要である。能美市はコンパクトなまちであるため、直接の出会いによりコミュニケーションが生まれるまちづくりを目指してほしい。

◆事務局

- ・しっかりと総合計画に反映していきたい。

◆市長

- ・ご指摘いただいた能美根上駅の活用については、計画の中でも検討していきたい。
- ・能美市の強さはコンパクトなまちであることだと感じているが、中山間地域には限界集落もある中で、小さな拠点づくりを目指していきたいと考えている。
- ・昨日、先進地視察で奈良県の橿原市と兵庫県の朝来市へ行ってきた。
- ・橿原市では、古墳が集積しており、これらを有効に活用して古墳間を繋ぐ歩行ルートが整備されていた。平日の日中でも多くの市民が集まっており、文化拠点教育拠点として活用されていた。
- ・朝来市では、竹田城や生野銀山等があり、観光を軸にしたまちづくりを行っているとのことであった。
- ・能美市でも西山古墳の総合整備を進めているところであり、周辺との一体的な整備によりウォーキングロードも合わせて整備することで、健康づくりや観光面にも生きてくるのではと考えている。
- ・一方で、能美市の課題は商業施設が少ないことである。来年の7月に、小松市では巨大なショッピングモールができるということである。南加賀の中心的な商業施設となるため、能美市への影響も大きくなる。外部からの影響によるものであり、難しい問題はあるものの、このような状況も踏まえて本計画を検討していきたい。

◆委員

- ・子供の成長を応援する活動をしているが、行政の方々と寄り添って活動できている。
- ・能美市の次の10年間を考えた時に、今の中学生が20代になっているが、今の子供達にはたくましさが欠けていると感じている。
- ・現在は、自然の中で学び、知恵をつけていく機会がないため、能美市の自然を活かし、子供達が自由に遊ぶことができる場所が必要である。外で遊ぶことができるような環境ができれば、能美市に愛着をもって成長してくれるのではないかな。

◆委員

- ・能美市は行政と市民の距離が近く、非常に良い街であると感じている。
- ・能美市は、医療福祉面に関しても良い評価をいただいているが、現在、石川県として2025年に向けた計画を策定中であり、この計画との整合を図っていく必要があると感じている。
- ・基本構想の「健康・福祉分野」では、ただ医療や介護を充実させるのではなく、命の尊厳に配慮した医療や介護の充実が重要である。能美市は人口規模の面でも非常に良いモデルケースになると感じている。

◆委員

- ・能美市の課題は、介護支援等のサービスを担う市民がいらないということである。市民の方々が自ら地域のことを考えて活動していくことが重要である。
- ・これには、小学生や中高生から感性を養っていくことが重要であり、福祉や医療についても自分達のこととして考えることを教えていくべきである。

◆委員

- ・能美市は、他の地域に比べれば、交通アクセス面でも非常に充実している地域であると感じている。
- ・市が取り組んでいる「ものづくりのまち」を進める中で、金沢市の産業展示館のようなものが能美市にあれば、企業と先端大学が連携して活かしていくことができるのではないかと感じている。長いスパンで検討いただきたい。
- ・保育所の整備が進み、良い環境ができてきているが、小中学校の老朽化も進んでいるため、少しずつ取り組んでいただきたい。

◆市長

- ・先端大学との連携は今後も強化していきたいと考えており、これにより産業面や教育面で能美市が南加賀地区の拠点となるのではないかと感じている。
- ・市内には、高い技術をもった企業が集積しているため、先端大学と連携していくことで、新しい産業製品の開発やイノベーションができるのではないかと感じている。

◆委員

- ・先端大学の学生が地域に就職してもらうように、能美市の企業群と大学が連携しようとしている。
- ・また、金沢大学と先端大学が連携して大学院を作る予定もある。地域の私立大学や国立大学と先端大学が連携し、能美市に研究所を作ることができないかと考えている。
- ・なぜ将来人口の目標を 50,000 人としているのか。55,000 人にするための議論を是非していただきたい。そのために思い切ったことを考えていかなければならない。